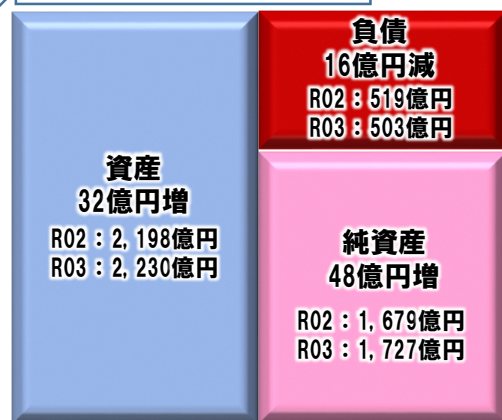


草津市の財務書類（令和3年度決算）の概要

【報2-1】

貸借対照表



主な資産の増要因

・固定資産	
（仮称）草津市立プール整備事業	27.3億円
第二給食センター整備事業	25.8億円
まちづくり基盤整備基金	11.6億円
・流動資産	
財政調整基金	2億円
減債基金	8億円

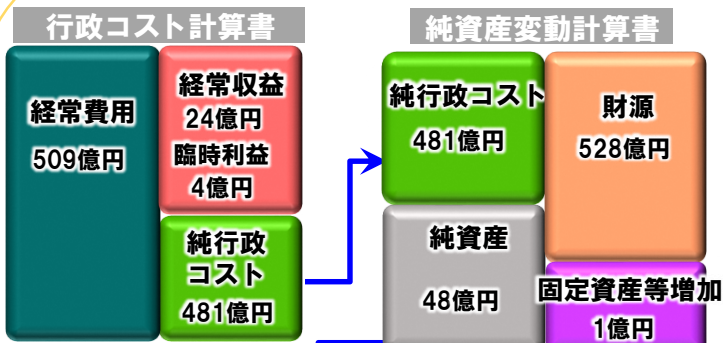
主な負債の減要因

R3 地方債新規発行	31億円
R3 地方債償還額	47億円
差引	16億円

Point

R3においては、施設等の整備を行いつつ、基金については取崩しを抑制し、積立を行ったことで、資産が増えました。また、市債の新規借入を抑制し、償還が進んだ結果、負債が減り、純資産が増えました。

行政コスト計算書および純資産変動計算書



経常費用 509億円（対前年比：▲112億円）

R2には、特別定額給付金給付費（135億円）があったことから減になった一方で、R3ではワクチン接種などのコロナ関連経費が増えました。

経常収益等 28億円（対前年比：0億円）

使用料や手数料など、日常の行政サービスの対価として受け取る収入等です。

純行政コスト 481億円（対前年比：▲112億円）

R2には、特別定額給付金給付費（135億円）があったことから減になった一方で、R3ではワクチン接種などのコロナ関連経費が増えました。

財源 528億円（対前年比：▲59億円）

R2には、特別定額給付金給付費（135億円）があったことから減になっていますが、地方交付税の増（対前年比12億円増）などにより純行政コストを賄うことができました。

本年度純資産変動額 48億円（対前年比：44億円）

Point

R3においては、税収等（市税、地方交付税等）が対前年比21億円増額になったことなどから、純行政コストを賄うことができ、純資産が増えたことで現世代の負担によって将来世代も利用可能な資源を貯蓄できました。

資金収支計算書



本年度資金収支額の内訳

業務活動収支 +68億円

業務支出・・・447億円
業務収入・・・515億円

市税や地方交付税の増などにより、支出を賄うことができました。

投資活動収支 ▲48億円

投資活動支出・・・96億円
投資活動収入・・・48億円

基金の取り崩しを抑制し、基金への積み立てを行ったことから赤字になっています。

財務活動収支 ▲16億円

財務活動支出・・・47億円
財務活動収入・・・31億円

新たな市債の借入を抑制し、一方で償還が進んだことから赤字になっています。

Point

支出を税収などで賄うことができたことから、収支全体で4億円の黒字になりました。